

## A. ファイルを保存しよう

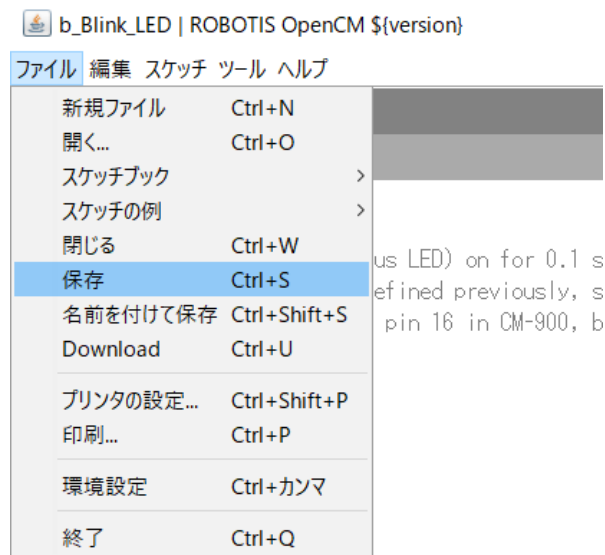
### A.1 サンプルコードを編集して保存しよう

「01. Basics」-「b\_Blink\_LED」を実行できたら、次はサンプルコードを変更してみよう。

```
void setup() {  
  // Set up the built-in LED pin as an output:  
  pinMode(BOARD_LED_PIN, OUTPUT);  
}  
  
void loop() {  
  digitalWrite(BOARD_LED_PIN, HIGH); // set to as HIGH LED is turn-off  
  delay(100); // Wait for 0.1 second  
  digitalWrite(BOARD_LED_PIN, LOW); // set to as LOW LED is turn-on  
  delay(100); // Wait for 0.1 second  
}
```

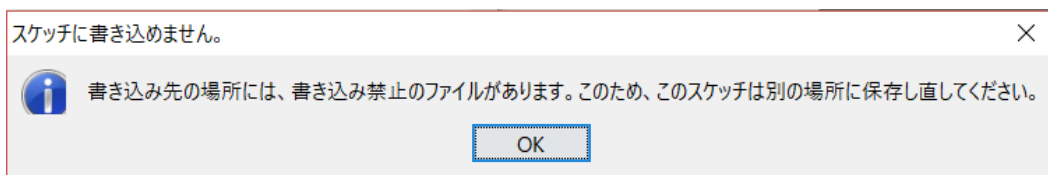
以上のサンプルコードでは、ボード上の LED が 0.1 秒ごとに消灯・点灯を繰り返していた。これを1秒ごとに消灯・点灯を繰り返すように変更してみよう。

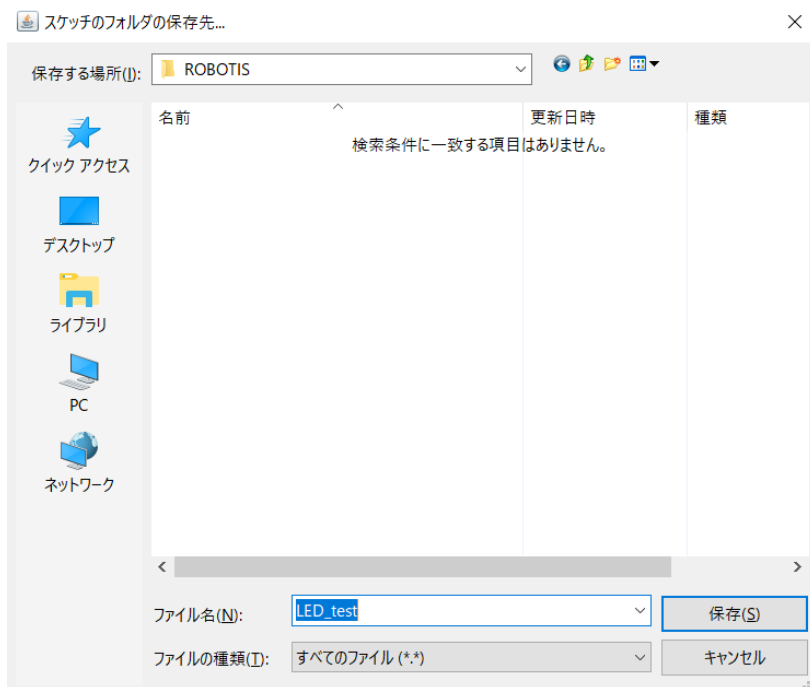
変更ができれば、次はファイルを保存しよう。[ファイル]->[保存]で、ファイルを保存できる。



\*/

ただし、今回はサンプルコードを開いて編集したので、単に保存しようとするとう保存ができない。以下のようなエラーメッセージが出てから、「スケッチのフォルダの保存先」ウィンドウが表示されるはずである。





“ドキュメント”や“デスクトップ”など、適切な場所にフォルダを作成してプログラムを保存しよう。上の例では、ドキュメント以下に ROBOTIS というフォルダを作成し、その中に LED\_test という名前で保存している

**注意: サンプルプログラムのフォルダに上書きしてはいけない。**

## A.2 保存したプログラムを開いてみよう

[ファイル]->[開く]から、保存したプログラムを開くことができる。「Arduino のスケッチを開く」というウィンドウが表示されるので、先ほど保存したフォルダへ移動しよう。以下のように拡張子が“.ino”のファイルが見えるはずなので、このファイルを選択し「開く」ことで、保存したプログラムを開くことができる。

